

令和7年1月14日

令和6年度 川崎医療福祉大学 総合外部評価報告書

外部評価委員

桑原 和美 (就実大学・就実短期大学 学長)

砂田 芳秀 (川崎医科大学 学長)

永井 敦 (川崎医科大学附属病院 病院長)

坪口 大蔵 (川崎医療福祉大学協定会 会長)

重田 崇之 (川崎医療福祉大学同窓会 会長)

令和6年度の総合外部評価は、事前に提供された関係資料(「令和5年度事業実績」「令和6年度事業計画」「令和5年度学報」)に基づいて、①内部質保証及び自己点検・評価活動、②教育研究組織、③教育内容・方法・成果(学部・大学院)、④入学試験及び広報活動(学部・大学院)、⑤教員・教員組織、⑥学生支援(学生生活・就職支援)、⑦研究活動、⑧教育研究等環境整備(施設設備・附属図書館)、⑨社会連携・社会貢献、⑩管理運営の10項目について事前評価を行ったうえで、評価当日には評価委員からの事前の質問や指摘事項に対する大学からの説明があり、併せて施設見学と授業参観が行われた。

その結果、川崎医療福祉大学では、大学の理念と方針に基づいて、自己点検・評価活動が概ね適切に行われていると判断する。

総評

川崎医療福祉大学は、「人間をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」の理念と、「人類への奉仕のあり方を追求し、より豊かな福祉社会の創造的担い手を育成する」という教育理念のもと、大学全体、学部・学科、研究科・専攻ごとに3ポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を定め、各ポリシーに基づいた教育活動を行うとしている。『令和5年度学報』には、教学組織を中心とした年間の活動報告として、全学的な組織である総合教育センター、各学部の学科と大学院研究科の専攻による活動計画、それに対する活動実績及び点検評価結果、課題が記載されている。また、『令和5年度事業実績』は、上記の10項目ごとに年間の主な活動実績をまとめたものであり、その実績を踏まえて『令和6年度事業計画』が策定されている。これらの資料から、川崎医療福祉大学における自己点検・評価活動がどのように展開されているかを概ね理解することができる。

以下は、外部評価委員による項目ごとの概評である。

項目別概評

① 内部質保証及び自己点検・評価活動

令和 3 年に適合と認定された大学基準協会による認証評価において、改善課題とされた「自己点検・評価委員会」の機能や内部質保証の手続きの明確化に対応するため、令和 5 年度に内部質保証推進委員会を設置し、自己点検・評価委員会との連携や、IR データに基づく自己点検の実施、外部委員による評価の導入等内部質保証の推進に取り組んでいることが報告されている。この点について、外部評価委員からは次のような意見や要望が示された。

- ・内部質保証推進委員会と自己点検・評価委員会が連携して自己点検を実施し、質保証の充実に努める体制を整備し、入学マネジメント、教学マネジメント、学生支援・教育研究環境マネジメントの各検討組織で自己点検を実施していることは評価できる。しかし、委員会規程を見ても、両委員会の役割の切り分け、具体的な関係性が明確でない。この点について、内部質保証推進委員会は、組織上「委員会」の名称としているが、実質的には体制を意味し、全般を統括する役割を果たすと説明されているが、そうであれば規程において明示し、内部質保証体制図上でも明確にすべきであろう。

- ・内部質保証体制図については、関係する組織の役割と関係性だけでなく、質の異なるさまざまな要素が含まれることによって複雑でわかりにくいものになっているため、改善を検討してほしい。

- ・次のステップとしては、整備された体制により PDCA サイクルが回り、改善につながる成果が求められる。現時点では施設・設備などハード面での改善例は紹介いただいたが、カリキュラム改善などソフト面での成果が期待される。

- ・過去の外部評価委員による点検結果が公表されているが、概評のみで、いつ・だれが・どのような評価をしたのか具体的な内容は示されていない。今後は、委員の選定基準や提供する資料の範囲も含めて検討してほしい。

②教育研究組織

医療福祉マネジメント学研究科の医療情報学専攻から医療福祉マネジメント学専攻への名称変更、医療福祉学科における初等・特別支援教育課程の設置申請、大学院における「早期卒業に関する規程」の制定といった取り組みが進められている点は評価できる。なお、ディプロマ・ポリシー（DP）に対する学生の学習成果の評価や教員の研究成果の評価を通じて教育研究組織の適切性を点検評価しているとのことだが、根拠となる資料が明確にされていない。

③教育内容・方法・成果

各学部・学科・研究科・専攻のカリキュラム・ポリシーに基づいて適切に教育課程を編成し、学生に対しては履修系統図や履修モデル、シラバスに DP との関連やナンバリングを記載して理解を促している。

学修ポートフォリオの本格運用を開始したところであり、成績・GPAに加えて卒業研究、学外実習、ボランティア活動・クラブ活動・学会発表等を記入させることで学生の活動全体

を把握し指導に活かすとしていることから、その活用が具体的に進展することが期待される。また、全学部共通科目として、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの導入、多職種連携演習や複数学科による「インタープロフェッション演習」などに取り組んでいる点は評価できる。

なお、学生の主体的な学習を促す方策が、シラバスへの自主学習時間の記載、授業初回における学生に対する授業計画やDPとの関連、成績評価方法の説明に留まっていることから、講義や演習における具体的な実践の状況を把握することが望ましい。

④入学試験及び広報活動

受験人口と医療福祉系志向者の減少という厳しい状況において、全入試区分での面接の実施や学校推薦型選抜前期の指定校推薦・有資格者に対する入試を除く入試区分での学力テストを行うなど、入学生の質の担保に努めている。また多くの学科で入学定員を下回っている状況に対して、大学体験型と探究学習利用型などの選択肢の拡大や入試区分における定員変更等の入試制度改革、広報活動の見直しの取り組みを進めている。ただし、定員未充足の状況に歯止めがかかっていないことから抜本的な改革が望まれる。

⑤教員・教員組織

大学設置基準の改正に準拠した基幹教員の配置を行っているほか、大学院在職進学制度などにより若手教員の育成に力を入れている。また、教員の質を担保するために行っている准教授以上のプレゼンテーションの実施は評価できる取り組みである。さまざまなFD・SD活動を活発に実施することで教職員の質の向上を図っている点も評価できる。教員の教育研究に関する評価を実施していることから、今後は制度が教員の質の向上に結びつくインセンティブのあり方も検討してもらいたい。

⑥学生支援（学生生活・就職支援）

学生総合支援窓口「オレンジハート」を設置して、悩みや問題を抱えた学生の多様な相談に対応できる環境を作るとともに、関係部署と連携して支援の充実を図っていることは高く評価できる。また、細やかな就職支援が高い就職率に繋がっていることも評価すべき点である。

学生アンケートの回答率に学科差があることから、回答時期や学生の回答を促す工夫によって向上を目指してほしい。

⑦研究活動

科学研究費補助金等の競争的外部資金獲得のための研修会や申請に関するアドバイスの充実を図ることにより、申請及び採択件数が増加するなどの成果を上げていることは評価できる。また、情報プラットフォームシステムを整備して、ビッグデータを利用した研究を

推進していることから、その成果が期待される。

⑧教育研究等環境整備（施設設備・附属図書館）

「情報プラットフォームシステム運用規程」と「データマネジメントポリシー」を制定して、社会と大学の状況に対応したデータのリスク管理を強化し、データの有効活用を推進するために必要な施設設備の充実を進めていることは適切な取り組みとして評価できる。また、施設及び授業の見学を通して、実習施設や設備等の教育環境が整っていることが確認できた。今後は、校舎や運動施設の老朽化対策や近い将来を見据えた図書館のあり方を検討する必要がある。

⑨社会連携・社会貢献

社会連携センターが中心となって、医療福祉の創造的担い手を育成する大学に相応しい「地域連携事業」「TEACCH 普及活動事業」「高大接続事業」「国際交流事業」「ボランティア活動事業」など、特色ある活動を活発に展開している点は高く評価される。なお、学生のグローバルな体験を後押しする取り組みを検討してもらいたい。

⑩管理運営

「川崎医療福祉大学管理運営方針」と、各委員会の規程に示された手続きと権限に従って適切に意思決定が行われているものと考えられる。また、従来から取り入れている裁量労働制や新たに導入された教員の就労管理システムなど、WLB の意識向上や働き方改革につながる取り組みを積極的に行っている点は評価できる。防災訓練の実施や予算管理の効率化等の取り組みも事業計画に基づいて着実に進められている。私立大学等改革総合支援事業タイプ1に採択されたことも評価する。ただし、管理運営については、事前に提供された資料からわかることが限られており、評価が難しい部分である。

以上から、川崎医療福祉大学における教育研究に関わる諸活動は全体として適切に行われていると評価できる。

なお、特に優れている点として、学生総合支援窓口「オレンジハート」の設置や関係部署との連携により多様な学生の悩みや問題に答え得る体制を整えていることが指摘できる。今後さらに学生のニーズと利用実績を検証することで支援の充実が進むことを期待する。

改善が必要な点として、内部質保証体制の整備と定員管理を指摘したい。内部質保証については項目別の概評に記しているためここでは繰り返さないが、特に学生の学修についてPDCA サイクルの結果どのような改善の成果につながったのかが示されることが重要である。また、定員管理は入学試験及び広報活動の改善努力だけでは十分ではないと考えられ、別の場における検討が望まれる。

以上